

artful 65

2021.3
松本市美術館 NEWS [あーとふる]

長期休館のお知らせ



松本市美術館は、大規模改修工事のため2021年4月1日から約1年間の休館を予定しております。ご利用のお客様には、大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

照明設備(ハロゲンランプによるスポットライト)



(現在)

「電気設備」
美術館展示において重要な要素のひとつである照明設備について、従来の蛍光灯(美術館仕様)やハロゲンランプのスポットライトを全面LED照明に更新します。長寿命で消費電力が少ない上、作品の色の再現性に優れ、効果的な展示空間を演出できます。

また、危機管理設備(監視カメラ設備・自火報設備・非常放送設備)や古くなっている映像音響設備を更新します。

機能回復に伴い、ロッカー室の整備(ロッカー数を増やし、これまで預け入れがでなかつた大型荷物も収納可)や、図書室まわりの区画の見直し(コンパクトでより利用しやすい美術情報図書室へ改装)、赤ちゃん休憩室(授乳や小さなお子さま連れが休憩できるスペース)の新設等、利用者目線に立った改装も予定しています。

開館20周年を迎える22年4月、リニューアルオープンする松本市美術館をどうぞお楽しみに!

(仮称)赤ちゃん休憩室



(イメージ)



空調設備(空気調和機)



空調設備(ガス焚冷温水機)

(現在)

大規模改修工事について

当館は02年4月21日にオープンし、開館から10年を経過した頃から建物や設備機器の経年劣化が進み、様々な問題が顕在化するようになりました。将来的な設備部品の生産中止等も懸念される中、部分的な修繕だけでは美術館機能を維持していくことが難しく、長期休館のうえ改修工事を実施します。今後の展覧会をはじめとする美術館事業を安心安全に行うと共に、皆様に快適な空間をご提供できるよう準備を進めています。

「機械設備」

作品の展示・保存に即した適切な温度湿度管理を行うため、空調設備の整備・更新をするほか、給排水設備等水まわりの不具合やトイレの全面洋式化の改修を行います。

ポルカドット号探検記

第30回

生まれ変わる「はこ」 松本市美術館館長 小川 稔

コロナ禍に翻弄された2020年、うれしいニュースとして「はやぶさ2」号の快挙があった。地球から3億キロ離れた小惑星に着、鉱物を採集し持ち帰ると信じられないミッションを6年かけて完遂した。面白かったのは、その小惑星がリュウグウと名付けられていたこと。だれもがあの竜宮城に旅した浦島太郎のお伽噺を思い出したことだろう。ただし、今回持ち帰った玉手箱の中身は煙でなく、期待以上に大量の岩石や砂が見つかったという。

実は、美術館も大きさは様々だがハコに例えられる。収蔵庫には貴重な美術作品を収め保存するための箱(わが国では古来、篋、函、匣などとも書かれた)が多数積まれているし、今日の美術館の展示室は建築的に「ホワイトキューブ」とよばれ、多目的に応じた真っ白な容器物なのだ。

たしかに美術館も長い年月を旅するハコ。市民の財産である貴重な美術作品を未来に運ぶことが我々の使命だが、それだけではない。昨年、当館は感染症対策のために数ヶ月の閉館を余儀なくされ



たが、その間、人のいない空っぽの展示室がいかにも虚しく見えたことか。美術館にとってハコとしての大きさや価値ある収蔵品も大事だが、それ以上にこの中を日常的に埋める鑑賞者や利用者の方々の存在、つまり人々の活力で満たされるべきということを実感した。そこにこそ本来「空」なるハコから無限の宝物を生み出す未来の美術館の姿が見えてくる。

ところで松本市美術館は今年4月から大規模改修のため、しばらくこのハコの蓋を閉じなければなりません。利用者の皆様にはご迷惑をおかけすることになりますが、2022年の春に生まれ変わった美術館で再び皆さんとお会いすることを楽しみにしています。

RELAY ESSAY

VOL.37

修景

当館学芸員 大西 哲理

美術館が開館したのは2002年のこと。当時高校生だった私は、その頃の事情を詳しくは知らない。そこで、この機会に建設当時の資料を探ってみた。

宮本忠長氏による現在の建築プランは、コンベを経て選ばれている。その決めた手は、松本城を意識した黒い外壁や北側の蔵棟などの松本らしさにあったと思う。宮本氏は、あるがまま、自然な美しさを損なわないことを目指す「修景」という言葉を好んで使っていた。

美術館の周辺を歩いてみると、いたるところから水が湧き出ていることに気づく。しかもこの湧水は、この地域の住民にとっての生活用水なのだ。建設にあたって設けられた、地域住民と市との話し合いのテーマは、ほとんどが地下水に関するものだったという。人びとの暮らしに影響のある地下水を枯渇させないこと。それが、地域の景観あるいは営みに、新しく建設される美術館が馴染んでいくための一番重要な課題であった。

そのため工夫をしてみると、貯水槽には地下水が貯めてあり、それが美術館正面で汲みあげられている。その水が「せせらぎ」として中庭を經由し、敷地の外へ抜けていく。さらに、中庭を中心として、棟を回遊型に配置することによって、南北の高低差を意識させない仕組みを持たせている。人々がこのせせらぎに沿って中庭を自由に行き来することにより、賑わいが生まれることを期待していた。

開館から18年の歳月を経た今では、美術館はこの地域のランドマークとなった。今度の大規模改修では、照明のLED化や各種設備の更新、赤ちゃん休憩室、大型荷物対応ロッカー室の整備などを計画している。これまで積みあげられてきた美術館のイメージを損なうことなく、時代に合った設備を充実させていくという点で、宮本氏が掲げた「修景」の理念に通ずるところがある。





初めての自主企画

当館学芸員 大島 武

学 芸員としてのデビューが遅咲きだった自身にとって、初めて担当した自主企画展は38歳の時、書家・上條信山（1907-1977）の生誕百年を記念する大回顧展だった。

館内3会場（企画展示室、常設展示室B・

C、上條信山記念展示室）を使った展示は、通常の企画展の約2倍の面積。作家の顕彰に加え、書という文化を広く発信したい思いで関連プログラムも多数企画した。

会期初日までに徐々に日が迫り、図録の原稿執筆や編集、展示関係などで連日深夜、時には徹夜で準備を進めていた。「あと何日：」と焦りが募っていた開催半月程前のこと、先輩学芸員から「まだ2週間もある」と声をかけられ思考

を切り換えた途端、ふっと気持ちが楽になったのを感じ出す。オープンを迎えた時はさすがに心身ともに疲労困憊状態だったが、そのような経験や来館者からいただいた嬉しいご感想が、今に至る大きな糧になっている。

書社やまず 上條信山 生誕百年記念展
「2006年7月15日-9月24日」

時空を超えてとどく芸術

当館学芸員 武藤 美紀

広げられたりと、普段とは違う緊張感に包まれたのもよい思い出である。

過

去、いちばん大変だったのは2011年秋の「スタジオブリ・レイアウト展」から翌年冬の「館蔵作品セレクト展」まで、約1年で4本の展覧会の開催を準備し、かつ3本の展覧会図録の制作に関わったときだろうか。プレッシャーは尋常ではなく、開幕まで何度も「展覧会のオープン日に作品が展示できていない」という夢を見て、逃げ出したくなった。しかし、その中で副担当をしたシャガール展は少し違った。図録の解説用にイディッシュ文化を掘り下げるのはとても面白く、ユダヤ人・シャガールの波乱万丈の生涯への興味は今も続いている。

海外輸送を伴う場合、「クレーン」として所蔵館の学芸員などが展示に立ち会う。このときはトレンチコフ美術館等から多くのクレーンが来館した。一緒に作品を点検することになり、片言の英語が通じているのか不安にかられたり、屈強なロシア人たちの号令で大作が



クレーンと作品点検

松本市美術館開館10周年記念展
シャガール展2012 愛の物語
「2012年2月10日-4月1日」

石井鶴三展

当館学芸員 稲村 純子

石

井鶴三（1887-1973、彫刻家・画家）の自宅兼アトリエに残された作品資料について整理・調査を始めたのは2005年。それから約4年にわたる作業のすえ、2016年2月に及ぶ作品資料の寄贈を受け、展覧会開催へとつながった。鶴三の全貌を紹介する、かつてない展覧会であった。

展示では、「第4章 挿絵と装丁」を担当した。鶴三は小説挿絵だけでも3千点を超える数を手がけている。当館に寄贈された挿絵と装丁に関する作品資料は約10,600点で、その中から展示できるのは僅か数十点。いかに鶴三の挿絵の醍醐味を伝えるか、選び出しに悩んだことを思い出す。

最も心に刺さった作品は、絶筆といえる作品である。鶴三は少年時代に馬の凸凹した感触に魅了されて彫刻家を目指した。また生涯を通して山をこよなく愛した人であった。その鶴三が亡くなる9日前に描いた作品が馬の絵であり、前日に描いた作品が山の絵であったのだ。スケッチブックの中にその絵を発見した瞬間の、心揺さぶる衝撃は今でも忘れることができない。

松本が松本のスタイルです vol.9
石井鶴三展 芸道は白刃の上を行くが如し
「2009年10月10日-11月29日」



ケース内は、挿絵と装丁に関する膨大な枚数の作品資料を積み上げた山。

「一人乗りヘリコプター」

当館学芸員 大島 浩

松

本市美術館の開館10周年記念展の折、松本地域で素敵なデザインをリリースする中でみつけたのがこの一人乗りヘリコプター。社長の柳沢源内氏は、子どもの頃抱いた「鳥のように空を飛びたい」という夢を形にしたエンジニア。出品交渉で何回か工房でのオイルの匂いを感じる。多くの人は、ドラえもん「タケコプター」を想起するだろう。2008年には「人が乗れる最小のヘリコプター」としてギネスブックにも登録されていた。柳沢氏は「僕が発明した」なんていえるものは世の中にそうはない。未来は自分の先にあるのではなく、自分の後ろにあるんだよ」といわれた（美術の世界もそうかも）。あのレオナルド



ド・ダ・ヴィンチのスケッチが目に見えた。イメージすることの楽しさが伝わる松本発のドリーム・デザインで、現在でも購入可能なのだ。ギャラリーートークでは、子どもたちに大人気だった。

松本市美術館開館10周年記念展 モダンデザインの精華
— 宇都宮美術館コレクションと松本で見つけたデザイン
「2012年4月14日-6月10日」

仏像展と鏡

当館学芸員 濹田見 彰

20

代の頃は、展覧会を担当するとストレスからか、急激に体重が落ちた（残念ながら今は落ちない）。松本地域のご仏像をお借りした展覧会では、開幕直前の1ヶ月だけで10キロ減った。展示作業が終盤に差しかかったある日、上からの照明だけではうづむいている像のお顔が暗くなってしまふことがわかり、急速、反射板などで下からの光量を増やすことに。学芸員は手一杯で動けず、困り果てていたところ、事務室のOさんから「何か手伝えないか」というお申し出。すぐにお店に走ってこれ、これ以上なく適した鏡を調達してくださり、事なきを得た。



得た。十数年経った今も備品倉庫でその鏡を見る度、自分の未熟さと感謝の気持ちを感じる。美術館にとって展覧会がすべてではないが、晴れ舞台ではあるし、市民、来場者、作家、所蔵者、関係者への責任も意識しなければならぬ重要な仕事だ。そして、担当学芸員一人の力でどうこうできない割に、だめにすることは一人でもできてしまう。その重圧に耐えられない自分は、いつも周りに頼り、援けられてきた気がする。

松本が松本のスタイルです vol.9 松本市市制施行100周年記念展 松本平の神仏 百柱をたてる
— 空即是色千住博 — 「2007年9月29日-11月11日」

戦後日本住宅伝説のチラシ

当館学芸員 大西 哲理

ひ

とこで言えば五里霧中。美術館に異動して3年目に、初めて担当として任せてもらったのがこの展覧会だった。展覧会の準備は、展示のレイアウトを考えたり、誘客のための関連イベントを考えたり、色々な事業を同時進行で進める必要がある、もうどこから手をつけてよいのかわからなくなる状態だった。なかでも混乱を極めたのがチラシ作成だった。担当デザイナーとの打ち合わせは、連日深夜まで及んだ。ほぼ決まりかけた。



※著作権により新建築社写真部提供以外の画像の利用は控えさせていただきます。

ていたデザインを見た先輩たちからの評価は、イマイチ。悔しくて入稿の直前にゼロからやり直してこのチラシを完成させた。上下左右がバラバラのデザインは、「デザイン優先で、手に取った方への配慮が欠けている」という意見もあった。けれども、新人にこれだけ自由に仕事をさせてくれた環境（若さで押し通した形だが）や、ゼロからデザインを考え直してくださったデザイナーには今でも感謝しかない。展覧会のオープニング式典にきていた主催者の一人からは、魅力的なチラシだとおほめの言葉をいただくことができた。

戦後日本住宅伝説
— 挑発する家・内省する家 —
「2015年4月18日-6月7日」

子どもと美術館

当館学芸員 林 風美

学

芸員として働くようになり、子どもと接する機会が格段に増えた。その中でも特に小さい子ども（3〜5歳対象）と接するワークショップ「はじめてのびじゅつかんさんば 探検！びじゅつかん！」では、文字通り初めて美術館を体験する子どもも多い。

学生時代、就職活動中に受けたとある美術館の最終面接での質問を思い出す。子どもに、作品に触れてはいけないことをどのように説明しますか？と聞かれ、思わず言葉に詰まった。走らない・触らない・大声を出さない等、美術館にはルールも多く、注意したことでも不快感を感じるお客様もいる。

はじめてのびじゅつかんさんば 探検！びじゅつかん！
「2020年10月20日、27日」

初めて担当として開催したこのワークショップでも、作品に触ってしまったか内心とてもひやひやしていたが、子どもたちの「来た来た、もっと見たい」という言葉に思わずはっとさせられた。ルールは大切である。しかしまずは、美術館や作品に興味を持ち、好きになってもらうことで初めてその大切さ分かるのかも知れない。あの時の質問の答えを探しながら、改めて子どもとの接し方を考えさせられた出来事だった。



Recollections — 追懐 —

現 在、松本市美術館で働く学芸員は7名。休館を前に、それぞれの学芸員がこれまでに開催した企画展やワークショップで印象的だった出来事や思い出、作品などを振り返ってみました。